



令和3年度 どんな1年だったでしょうか

明日で令和3年度が終了します。1年間は過ぎてみればあっという間です。4月、新しいクラスになり、1年生は初めての中学校に入学し、希望や期待、そしてちょっとした不安、そんなスタートから1年。そのときの気持ちや姿から、今はどう変化、成長しているのでしょうか。自分を振り返ることはとても大切なことですが、特にこうした節目の時期は自分に向き合いやすい時です。毎日の授業で学んだこと、行事への取組に仲間と必死に向かったこと、部活動で頑張ったこと、日々仲間とはしゃいだこと、うまくいなくて悩んだこと、自分がいやになったこと、頑張る姿に感動したこと、たくさん笑ったこと、大切な本に出会ったこと、…そういったことがすべて自分自身の糧となって、きっと1年前とは違う姿になっています。

iPhoneなどを開発したアップル創業者のスティーブ・ジョブズが講演でこんなことを言いました。

「もし、今日が人生最後の日としたら、私は今日やろうとしていることをしたいと思うだろうか」

自分は人生最後の日をどう過ごすのか…。もっとこんなことしたかった、あれもやりたかった、そういう思いはいくつもあります。でも1日しかないのなら、今まで関わってきた人たちと話をし感謝を伝えたいかな。ただ、最後の1日とはいわないまでも、私たちにはいずれ最後の日がやってきます。その時までどんな人生を送って、どういうふうになりたくて、そう思って目指していけば近づいていくものだと思います。毎日、人生最後の日のような日々は送れません。だらだらと過ごしたり、休んだりする時もあります。後退していると感じる時もあるでしょう。でも、長い目で見れば、きっと確かな足跡があります。今年度最後の日を迎えようとしている今、自分を振り返って、4月からの新たなスタートの気持ちを高めましょう。

保護者の皆様 1年間ありがとうございました。先日の学年PTAで2年生の役員さんが「小学校の卒業の時はカウントダウンで卒業までの思いを高めることがかなわず、それが2年間も続いている」と話をされ、今の中学生はコロナ禍での中学校しか知らないで過ごしていて、それは保護者の方にとっても心配だったり、寂しかったりすることだと伝わってきました。今年も輝桜祭や合唱発表会などは見ていただけでしたが、部活動や授業参観などはできませんでした。ただ、そういった中で子どもたちの頑張る姿や、成長している姿はきっとたくましく感じたり、嬉しく感じることもあったかと思われまます。これからもコロナは続きますが、その中で得られること、工夫できることを積み重ねていきたいと思ひます。ぜひ、今後よろしくお願ひいたします。

■ 中学学年別バドミントン大会

- 男子** 2年ダブルス 深沢修平・竹ノ内利徠 **準優勝**
戸栗慶人・樋川拓海 **ベスト8**
1年シングルス 佐野太陽 **ベスト8**
1年ダブルス 望月龍之介・柳澤煌弥 **ベスト8**
- 女子** 1年ダブルス 望月香莉愛・望月晶翔 **ベスト8**

■ 西嶋和紙の里蔡倫書道展

和紙の里賞 松村瑞希

僕らまた それぞれの道を歩み始めるんだ



厳粛な式の中で見せた決意あふれる表情，姿勢。終了後，保護者や先生たちに向けて伝えた感謝，熱い思い，コロナ禍の中でできることを短い期間で取り組み，自分たちだけの力で創り上げた素敵な感謝の会。前日にはすべての先生たちと後輩にも伝えてくれました。自分だけの力じゃない，家族，先生，後輩，地域の方，そして仲間，多くの方に支えられていると実感することは，これからの大きな力になります。「夢応援契約書」という契約を，一人一人が3年の先生たちとかわしました。きっとお互い大切にしていくものになることでしょう。こんなものをつくる卒業生を見たことがありません。卒業生の身延中学校での確かな成長と，これからそれぞれの道を歩み始める決意を見せてくれた卒業の日でした。新しい道を歩いていく卒業生が幸せな人生を送ることを心から願っています。

過去から学び 未来を見つめ 今を生きる Imagine all the people living life in peace

4月の修学旅行を延期することにしました。事前学習に取り組み，楽しみにしていた2年生には申し訳ないですが，コロナの様々な状況から判断し，7月に延期をしました。修学旅行では京都，奈良で古都の歴史に学ぶことと，広島で平和について考えるという大きな目的があります。歴史を知るといことは，未来の生き方につながっていくのです。特に今，「ヒロシマ」を学ぶことが大きな意味を持つ状況になっています。

おととい，身延町在住で合唱，音楽の指導などをされている山本晴美さんの「歌語り」を，2年生が修学旅行の取組の一つとして聴きました。広島の平和記念公園で出会ったおじさんとの交流から，その人生を語り継ぐ中で，原爆，戦争のリアルなこと，その時だけでないその後の人生も，そしてそれを未来に，世界につなげていくことを，歌や言葉，映像で伝えてくれました。寒い体育館でしたが，みんなが真剣に聴き入り，山本さんから「皆さんが真剣に受け止めてくれていることが伝わってきて，何よりもそれが嬉しい」と話してくれるほどでした。広島に行った時，これを見ておきたい，ここで祈りたい，ここで感じたい，と思えるものでした。事実をちゃんと知り，それを肌で感じ，心にとどめておくことは，特に中学生という多感な時期だからこそ，とても大切なものです。9月に同時多発テロのことで伝えたジョンレノンさんの「Imagine」も歌ってくれました。戦争の悲惨さだけを感じるのではなく，そこからどんな未来を求めのか，そういったことを伝えてくれるものでした。

山本さんと話をしていて，平和についてのことはもちろん，その生き方についても刺激を与えてくれるものでした。身延町に住んでいる一般の方が，国連に参加するってとんでもないことだし，思いを持って進んでいるといろんなところにたどり着くんだなど。きっかけもふとしたところから始まって，いろんな出会いが生まれて，どんどん広がっていく。そしてそれに応えようと力を尽くしていく。そんな姿がとても素敵に思えました。だからこそ，平和な世の中であってほしいし，未来を生きるみんなに自分で考えていききっかけになってほしいと感じます。

ロシアとウクライナのことは世界中が心を痛めています。日本もかつてそうでしたが，情報を公平に得て，周りに流されず，自分自身が正しい判断をするということが大切なことだと感じます。みんなが平和に幸せに暮らせるように願うばかりです。

